



Profile No.2

一燈を提げて暗夜に行く

暗夜を憂うことなかれ

只一燈を頼め

石川 千晶

石川 千晶

いしかわ ちあき

1982年 公認会計士試験合格
1983年 一橋大学商学部経営学科 卒業
監査法人中央会計事務所東京事務所 入所
1986年 公認会計士登録
太田昭和監査法人高松事務所 入所
2008年 税理士法人石川オフィス会計 入所
2016年 日本公認会計士協会四国会 会長に就任

公認会計士を目指そうと思ったきっかけを教えてください。

一番の理由は、父が公認会計士だった事です。高校2年の進路決定時に、父が結核で長期入院しました。それまで文学部を受験しようと思っていましたが、事務所を建てた時期とも重なり、私が公認会計士にならなければと長女の自覚から一橋大学の商学部に進学しました。父は大学入学前に復帰しましたが、当時まだ男女雇用機会均等法が制定前で、女子学生の就職は難しい時代でした。大学1年の冬に、ニューヨーク勤務の親戚の家にホームステイした際に、その企業の監査法人を訪問し、会計士業務の多様な可能性を感じて、公認会計士を目指そうと思いました。

現在の仕事の内容を教えてください。

2018年3月までは父が代表であった事務所を引き継ぎました。事務所の会計士業務は、会社法、学校法人などの法定監査と任意監査があります。こちらは問題なく引き継いだのですが、税理士法人については、今まで父が一人でしていたマネジメントをグループで分担するなど、持続可能な状態にできるよう、工夫して試行錯誤している最中です。そのほか、上場企業の社外役員や非営利団体の監査委員等を引き受けているので、平日の日中は、これらの会議が多く、間を縫って監査業務を行い、税務については、夕方以降に職員の作成した資料をチェックする感じになっています。父から事務所を引き継ぎましたが、その前から手伝っていたのでどの時点で独

立開業したかという明確な点はないと感じています。

若手時代に苦労したことはなんですか。

今と違い調書が手書きだったので、字が上手でなく「読めない」と言われたことがあるような記憶があります。辛いこともありましたが、仕事は楽しくむしろ周りの方が苦労していたのではないかと思います。リスクアプローチがまだ基本としていなかった時代だったので、会社でいくら調べても分からなくても酒飲んでナンボみたいな方もいらっしゃいました。公認会計士試験の財務諸表論と実際の実務上の違いに慣れるまでは苦労したように思います。

公認会計士人生でのターニングポイントを教えてください。

東京事務所を退職して故郷に帰ることを考えていたときに、国際部に誘われ、行けばどうだったかなと思う事があります。非常に迷いましたが(具体的にはNYのテロまで)、外国に行くのは旅行で行くのが楽しいので後悔はしていません。

次は、40歳位に坂出市の包括外部監査に関与した時です。当時は公認会計士も会社の会議室で煙草を吸っており、それが嫌で、仕事を辞めようと思っていました。その頃、自治体の監査に応募する人がいないので応募してくれと言われ、女性だし、若いし選定されることはないだろうと応募したところ、選任されました。自治体の監査は、普段の監査と違って面白い事が

色々あり、一番良かった包括外部監査の監査報告書に送られる『オンブズマン大賞』も受賞しました。

坂出市の市長さんも自分の事のように喜んでくださり、結果的に仕事を続けていく事になりました。仕事を辞めるのを止めたことがもう一つのターニングポイントであったと思います。

自治体監査の魅力とは何ですか。

自分が関与した坂出市のような小さい自治体は、大体全部見えることです。また、香川県は水不足で悩んできた歴史があり、渇水が1番の災害です。しかし、平成16年の大賞を貰った年は、高潮が来て、逆に洪水被害に遭いました。その時に、坂出市役所の人、課長さんや部長さんでもみんな作業服を着て、みんな必死に作業をし、本当に真面目に市民の事を思って仕事している姿に感動しました。しかし、時にやり方が少しズレている時があり、民間から見るとちょっと違うのではという事があります。そんな人達のお手伝いが出来たら良いという事を凄く感じています。

ご自身の現在のご活躍の源泉は、どのようなものとお考えですか。

そもそも活躍しているとは思っていません。不思議だと思うことを不思議だと言えることが公認会計士にとっては大事なことだと思いますので、そういう点では、自分に合った仕事に就いたとは思っています。女性の公認会計士という事で、凄くニーズが高く活躍しているように見えているのかもしれない。

仕事をする上で、フェアという事を大事にしています。フェアという視点で仕事

をしている職種は珍しいと思います。公平に見てどちらの処理が正しいのか、それをしっかりと説明できることが大切であると感じています。

これからの公認会計士に大切にしてほしいことは何でしょうか。

例えば、往査の際に、自分の担当を終わらせたら終わりという意識ではなく、監査を通じて会社の全体感を含め、様々な事を吸収してほしいです。会社に育てて頂いているという面もあり、会社の実施している工夫や企業間の比較などをするのが有効であると感じます。また、自分の考えをきちんと説明できることも重要だと思います。

若手公認会計士へのメッセージ

「一燈を提げて暗夜に行く。暗夜を憂うことなかれ。只一燈を頼め。」

言志四録に収録されている言葉です。言志四録は、西郷隆盛の唯一の愛読書として有名ですが、たくさんの、いわゆる名言が詰まった書です。その中でこの文は、大学のOB会報で引用されていたものです。長い人生の中には、どうすればいいのか途方にくれることもあると思います。ともすると、人の意見や空気に流されてなんとなく決めてしまうことが多いのですが、最後に責任を取るのは自分ですから、自分の中の灯りだけを頼りに進め、というような意味だと思っています。自分の中の正義感や知識を頼りに独立性を守って判断することが求められる公認会計士業務自体にも通じる言葉だと思います。

(取材・編集)日本公認会計士準会員会
実践躬行チーム